

川原 賢士

家畜防疫対策課 技術主査

2020年入庁

鹿児島県鹿児島市出身

職歴

(2026.3現在)

2020- 畜産試験場（養豚研究室）

2022- 肝属家畜保健衛生所

2024- 県庁家畜防疫対策課

01現在の仕事内容



国、他県、関係機関、関係団体と連携しながら人工授精関連の調整を行うほか、飼養衛生管理基準や定期報告に関する事務、公益法人や獣医事の各種業務、月報作成、家畜保健衛生業績発表会の対応などを担当しています。

02鹿児島県に入庁した理由



地元である鹿児島県は全国有数の畜産県であり、獣医師として幅広い経験を積める環境が整っていると感じ、入庁を志望しました。学生時代には県の奨学金制度による支援を受けており、学んだ知識を地元の畜産振興に還元したいという思いが入庁の大きな動機となりました。

03現在の業務の魅力



本庁では、獣医職に限らず、幅広い職種の職員と連携して業務を進めることで、学生時代には得られなかった知識を習得する機会が得られています。課題が生じた際には、関係課と協議しながら解決を図っています。さらに、本県は畜産県であることから、全国の本庁からの照会件数も多く、他県の実情を把握する機会も豊富です。そのため、多くの知見を得ることができます。

04とある1日の過ごし方



問い合わせ対応



出勤

他部署との調整、関係機関や関係団体や各家畜保健衛生所からの問い合わせ対応

昼休憩



農林水産省とのオンライン会議

資料の作成

- ・国への報告書作成
- ・県のHPの更新業務
- ・農家向けの資料作成

退庁

翌日の業務を確認し退庁

08:30

10:00

11:00

12:00

13:00

14:00

15:00

16:00

17:15

05 仕事でやりがいを感じることも



県獣医師としてのやりがいは、地域の畜産業と県民の食の安全を直接支えているという実感を得られることです。家畜の健康管理や伝染病の予防、農家への技術支援など、日々の業務が県の基幹産業の安定につながっていることを強く感じます。また、現場で農家の方々から感謝の言葉をいただくことも多く、専門性を活かして地域に貢献できているという手応えがあります。さらに、家畜衛生、食品衛生、動物愛護など幅広い分野に携わることで、獣医師としての知識や経験を深めながら成長できる点も大きなやりがいです。

06 仕事できつかったこと・苦勞したこと



鳥インフルエンザが発生した際には、緊急対応が必要となり、夜間や休日を問わず現場に向かうことがあります。現場では長時間の作業が続くことも多く、防護服を着用しての作業は体力的にも精神的にも大きな負担となりました。

07 仕事でびっくりしたこと・印象に残っていること



毎回、異動毎に、ほぼ転職といってよいほど仕事内容が大きく変わり、職域の幅が広いことが自分のキャリアの特徴だと感じています。また、公務員になった当初は臨床経験を積む機会はないと思っていましたが、実際には試験場勤務で診療や治療に携わることができました。畜産試験場の養豚研究室に所属していた際には、帝王切開を行うなど、想像していなかった形で臨床に関わる経験を積むことができました。こうした予想外の業務に触れられる点も、この仕事の面白さだと感じています。



畜産試験場 豚の採胚業務



防疫啓発広報キャンペーン

08 鹿児島県庁の好きなところ



鹿児島県庁は獣医師の職員数が多く、家保、保健所、県庁本庁など、獣医師同士のネットワークが強く、困ったときに相談できる仲間が多いのが特徴です。若手でも先輩がしっかりフォローしてくれるので、専門性を高めながら成長できる環境があります！

09 仕事終わりや休日の過ごし方



仕事終わりや休日は、主に体を動かして過ごしています。職場の仲間とフットサル、バドミントン、登山、水泳などを楽しみながらリフレッシュしています。仕事でうまくいかず気持ちが沈むときも、こうした時間が心を切り替える助けになっており、私にとって大切な時間になっています。

